

藤本伊三郎記念がん登録学術奨励賞 院内がん登録と全国がん登録、 実務と研究のリンケージ

NAKABAYASHI Narue

中林愛恵

島根大学医学部附属病院



藤本伊三郎
記念がん登録
学術奨励賞

この度は藤本伊三郎記念がん登録学術奨励賞という大変栄誉ある賞を賜りまして、ありがとうございます。関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

私は診療情報管理士として2003年から院内がん登録業務に従事し、2010年に島根県地域がん登録の立ち上げに関わり、院内がん登録と全国がん登録の両方でがん登録実務者として活躍してきました。そしてがん登録データをがん対策や研究に活用するために島根大学医学部大学院医学系研究科に入学し、2018年に医学博士を取得しました。がん登録実務をしながらがん登録データを用いた研究を行っております。

今回賞を賜りました研究を紹介させていただきます。

「ステージと症状に関する研究」(Int J Clin Oncol.2018.)

島根県院内がん登録解析データを用いて UICC TNM ステージと症状有無の関連を調査して、がんの初期には症状が乏しいことを数値で明らかにして、がん検診受診の必要性を訴えました。研究結果は県のがん検診会場に掲示するポスターや新聞記事などで活用されました。



「小児・AYA 世代有病者数」(JACR Monograph.2019)

島根県の小児・AYA 世代がん部会に参加し、対策立案のために対象者の概算の必要を感じました。当該地域の悉皆性を有する人口ベースのがん登録の特徴を生かして、島根県地域がん登録データを用いて、罹患数と生存率からの推計でなく、実測で有病者数を計算しました。

「都道府県がん登録室から届出元病院等への疑義照会の標準化」(JACR Monograph.2020)

全国がん登録都道府県がん登録室業務標準化専門家パネル委員会で取り組んだ活動報告を論文にしました。規模の異なる11か所の都道府県がん登録室の実務者で検討を重ね、統計データへの影響を考慮した登録の正確性と即時性のバランスをとった疑義照会方針案を作成しました。

「がん相談記録と院内がん登録データのリンケージ調査」(診療情報管理.2020)

施設のがん患者の悉皆性を有する院内がん登録の特徴を生かして、島根大学院内がん登録データとがん相談記録を患者IDでリンケージして、がん種毎のがん相談室利用割合や、診断から相談までの期間等を調査し、がん患者・家族支援センターの周知に役立てました。

「COVID-19 がん診療への影響調査」(診療情報管理.2022)
データが集まるのが早い院内がん登録の特徴を生かして、島根県院内がん登録解析データを用い、COVID-19 感染拡大以後とそれ以前の登録数を比較して、がん診療への影響を調査しました。

「妊孕性温存療法の対象患者数試算」(日本がん・生殖医療学会誌.2023)

詳細なデータ項目が利用できる院内がん登録の特徴を生かして、島根県院内がん登録解析データを用いて、がんの部位、ステージ、患者の年齢、治療方法と治療開始までの期間等詳細な条件をもとに、妊孕性温存療法の県内の潜在的な対象患者数を試算して、がん・生殖医療ネットワーク構築の必要性を述べました。

いずれの論文も院内がん登録と地域 - 全国がん登録のそれぞれの特徴を生かして、テーマに応じてデータを選択しました。登録実務者として病院のがん診療や県のがん対策に関わる中で、医師が気になっている臨床上の疑問や行政担当者が抱える行政課題等のニーズを伺ってがん登録データを用いた研究のきっかけを見つけました。

がん登録実務者として、他の施設のがん登録業務者、医師や研究者、行政担当者、そして患者さん、これらの方々をつなぐ役割ができて、そして皆様に支えられて、仕事をさせていただいていることに感謝しております。

